宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2023

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

英霊に感謝、春季例大祭

慰霊と平安への祈り

靖国神社

東京都千代田区の靖国神社（山口建史宮司）で令和5年春季例大祭が4月21日の清祓から始まり22日の例大祭までの2日間斎行された。多くの参拝客が訪れ、外国人観光客も増え、コロナ禍以前の水準に戻っていた。

参向する勅使筑波和俊掌典、随員＝4月22日、東京都千代田区の靖国神社

春季例大祭に合わせ、岸田文雄首相は21日、「内閣総理大臣 岸田文雄」名で神前に「真榊」を奉納した。その他、加藤勝信厚生労働相も真榊を奉納した。高市早苗経済安全保障担当相は21日に参拝し、超党派の議員連盟「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」の87人の国会議員も21日に一斉に参拝した。皇室からは22日の午後に瑤子女王殿下が参拝された。

午前10時、多くの参拝客が見守る中、大太鼓が静寂な境内に鳴り響き、宮司・神職が参進、本殿所定の座に着いた。國學院大學吹奏楽部による国歌奉奏に続き本殿内陣の御扉が開かれ、神饌が供せられ、初獻の神酒を奠した。宮司が神前で祝詞を奏上し、英霊に感謝の誠を捧げた。

二獻の神酒を奠した後、勅使（筑波和俊掌典）が御幣物を奉って参向、本殿所定の座に着く。宮司は御幣物を神前に奉奠した。勅使は神前に進み御祭文を奏上し、玉串を奉って拝礼した。

勅使・随員下向後、フォイエルコール混声合唱団による「鎭魂頌」「靖國神社の歌」の合唱が奉奏され、三獻の神酒を奠した後、宮司が玉串を奉って拝礼した。宮司に続き特別参列者及び崇敬者総代が本殿に進み、玉串を奉って拝礼。午後3時、御幣物、神饌が徹せられ、宮司が御扉を閉じ春季例大祭並日祭は滞りなく修められた。

山口宮司は次のように御礼の挨拶をした。

「激動する世界情勢の中で、御祭神は祖先から受け継がれてきた日本を守る使命を担い、国のため、肉親のため、愛する人々のために、艱難辛苦を耐え忍び、尊い一命を捧げて尽くされた。その『みたま』は靖國神社に祀られ、毎日毎日奉慰顕彰の厳粛な祭祀を執り行い、時代を超えた慰霊と平安への祈りが積み重ねられている。明治天皇の御製『我國の為をつくせる人々の　名もむさし野にとむる玉かき』これからも祭祀の厳修はもとより、多くの方々に、当社創建の理念や御遺族の心を伝えたい」と語った。

春季例大祭の期間中、境内では各流派家元による献華展、能楽堂では各種奉納芸能が行われ、古武道、居合道、剣舞術、日本舞踊、大正琴、講談、江戸芸かっぽれ、琉球舞踊、連吟、仕舞、琵琶楽、合唱、吹奏楽、浪曲が能楽堂で奉納された。

境内にある遊就館では特別展「海鳴りのかなた―波間より現れる戦中の記憶―」（後期展示）が12月3日まで開催されている。

水中写真家の戸村稔行氏の協力で、世界各地に沈んでいる軍艦の写真と引き揚げられた品、沈没した戦艦や輸送艦の映像や国内外の沈没艦船の分布地図が展示されている。

また、戦歿した英霊が戦時に対峙した決意、国や愛する家族を護るため軍務や訓練に立ち向かう姿を、記録や遺品から辿る。戦艦「武蔵」艦長の猪口敏平海軍中将は昭和19年10月24日、レイテ沖で敵機の集中攻撃を受け、沈没寸前に手帳に遺書を残し、愛用のシャープペンシルと共に副長の加藤憲吉海軍大佐に託した。人間魚雷「回天」で戦死した今西太一海軍大尉、沖縄本島周辺で巡洋艦を撃沈した片山勝義陸軍大尉などの遺品、「みたまたちの最期の瞬間」では海に散った英霊の日記や手記が展示されている。

戦艦「武蔵」艦長・猪口敏平海軍中将愛用のシャープペンシル

社説

日本人がつくる社会の基本

鳥越皓之著『村の社会学』（ちくま新書）は日本人がつくる社会、日本人の人づきあいの原点が描かれている。古代から続いてきた稲作の共同作業がその舞台となったとされるが、1950年代後半からの機械化により、農村の様相は一変した。

その典型が田植えで、女性たちの手作業が頼りだった時代は大勢で一斉に取り組んだものだが、田植え機が導入されると、家族だけでの作業が可能になった。農家の後継者以外は都会に出て経済成長を支え、農作業者の減少を機械化が補った。

テレビの普及など情報化で地方にも都市文化が広がり、個人主義的な生き方が進んだ。地方から都会に出た大量の若者たちが日本の宗教事情を変えたのは、宗教学者の島田裕巳氏が言うとおりである。

しかし、それはこの50年余りのことで、古くからの日本人の人間関係は変わっていない。とりわけ地方に暮らすと、それを実感するだろう。

公平と自由

里山がある地でも農業は自然から離れ、自然由来の堆肥ではなく化学肥料が主流になり、人が山に入ることは少なくなった。山麓の畑は耕作放棄され、竹林になるなど村の風景も変わっている。しかし、自治会活動などに参加すると、人間関係は変わっていない。というか、それが日本人の共同体の基本なのだろう。

例えば、会社などの近代組織ではトップダウンが多いが、村では時間がかかっても、全員参加のボトムアップが原則。平たい人間関係が大事で、不公平が最も嫌われる。地域の草刈りや水路掃除などは全員参加で、欠席だと罰金があるが、高齢者には「出てくるだけでいいから」と声をかける。平等が原則だが、思いやりがそれに加わる。

機械化で共同作業は不要になったが、近年、米価の下落や後継者不足で耕作放棄が目立つようになった。そこで1990年代から農水省が進めてきたのが集落営農。補助金により規模拡大と大型機械の導入で生産コストを下げ、集落の農業を維持しようというのである。その先に、農事組合法人の設立や株式会社でも農地が取得できるなどの政策が展開されてきた。

集落営農の参加者は定年後の元気な高齢者が中心で、これが今、村を支える力になっている。健康なので働くのか、働くから健康なのか、健康長寿型農業というのが実感。人生100歳時代には、これも日本人の生き方の一つである。

農水省の多面的機能支払交付金という補助金は、田んぼの整備や農道の舗装、竹林の伐採、山桜の植樹など、村の環境保全に使うことができる。民主党政権時代にできた法律に基づく補助金で、多くの失政の中で評価できる政策の一つである。

米作が培った村の暮らしは、毎年の繰り返しで、都会と違い、時間が永遠に流れているような気がする。昔はそれが自然にできていたが、今は行政が関与して維持されるのは、それだけ人口が増え、社会が複雑になったからだ。

宗教とは、有限な存在の人が無限につながる道、あるいは生き方と言えよう。本来、宗教は人が生きる道であり、学びや修行で終わるものではない。少年時代の道元は、「人に仏性があるのなら、なぜ修行しなければならないのか」との疑問を持ったという。僧ではない普通の人としての疑問である。そしてたどり着いた答えは、「仏性があるから修行できる」である。悟りとは到達したある境地ではなく、到達を目指すその過程にあるというのが本当だろう。

高齢期は子育てや仕事などいろいろな役割から解放され、人として自由に生きられる時代である。自分のため、経験と知恵、人脈を生かして取り組む「自由」こそが、高齢期に最も大事なものと言える。

天香師誕生祝う一燈園春の集い

講演「トイレから地球感謝」

京都市山科区

西田天香師生誕151年を祝って4月15日、京都市山科区の一燈園（財団法人懺悔奉仕光泉林、代表・西田多戈止当番）で恒例の「一燈園『春の集い』」が開かれた。今年はコロナ禍が下火になったため全国の会員が集まり、講演や高校生による合気道の演武を楽しんだ。

挨拶する西田多戈止当番＝4月15日、京都市山科区の一燈園

最初に西田多戈止当番の主唱に合わせ「天華香洞録抄録」を唱和、地球に懺悔と感謝の黙祷を献げた後、西田当番が一燈園の一年間の活動を振り返った。

西田当番はまず、会場に飾られた生け花を紹介し「一燈園の青年たちが植えて育てた桜などを集めて活けた、この花も私たちも皆様を歓迎します」と挨拶した。そして昨年秋に、滋賀県長浜市で「西田天香と杉本哲郎」展が開かれたことについて、画家杉本氏と天香師との合同展を共通の故郷である長浜で開いたことに意味があり、そこにインドのニキレーシュ・ギリ総領事が出席されて大成功を収めたと報告した。

講演する白倉正子氏

今年2月には、シビ・ジョージインド大使夫妻とギリ総領事が一燈園を訪れ、香倉院に展示されている、ガンジーから譲り受けた手回しの木製糸車（チャルカ）を見て感慨深い時を過ごしたことを報告した。そして、杉本画伯の孫で実行委員でもある杉本太郎氏を紹介した。杉本氏は、昨年の合同展と西田家と杉本家の3代に渡るご縁に感謝し、近い将来、同様の展示会を京都でも実施したいとの構想を発表した。

開会式の後、トイレ専門企画会社「アントイレプランナー」代表白倉正子氏が「トイレから地球革命！～地球感謝をトイレから実践！～」と題して講演。白倉氏はトイレ清掃に関する起業を考えていた時に一燈園と出会い、トイレ清掃を体験したという。

トイレの研究を進めた白倉氏は奥深さを見いだし、現代の技術によるトイレ掃除の研究から、自身が指導する立場になる。そして、千葉県の観光対策の一環として県民にトイレ掃除を教えるため3年間で50か所を訪問し、720人に指導したという。

また、銀座の高級クラブに夕方から出勤する女性たちは、出勤前の化粧直しに、トイレが広くてきれいなデパートを選ぶので、それに伴ってデパートの売り上げも伸びたというエピソードも紹介した。話を聞いた大阪市から来た婦人は「清掃の技術もすいぶん進んでいて、奥が深いですね」と感心していた。

講演の後、園内にある燈影学園の少林寺拳法部の高校生による全国大会優勝の報告と、演武が行われ、裂帛の気合いとともに目にも留まらない突き、蹴り、そして投げに参加者から大きな拍手が湧いていた。

午後からは演奏会が開かれ、池田沙弥（さや）さんのバイオリン、坂口航大（こうた）さんのピアノ演奏があり、「チャルダッシュ」「子犬のワルツ」や、アンコールに「情熱大陸」のテーマ曲が同園に響きわたった。

少林寺拳法を披露する燈影学園の高校生

日本の風土を守る

5月の連休は、地方では田植えの最盛期で、行楽地に行かなくても自然を満喫できる。地方を訪れた折には、竹林化した山裾や耕作放棄地を見てほしい。日本人と日本社会を育ててきた風土が壊れつつある。それを例えば、ランニングやマウンテンバイクのトレイルロードという現代的な手法で再生につなげたい。元気な、元気になりたい高齢者には、そんな地域で汗を流すのもいい生き方になる。

AIなど今流行の技術は、数年後には陳腐なものになりかねない。それに比べて宗教は、千年を経ても色あせない。学べば学ぶほど知りたいことが増えるから、島田裕巳氏の言うように、高齢者にはお勧めの学びである。その実践、修行として、ゆかりある地域の風土再生に取り組んではどうだろう。

灯

「さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。『わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』」（マタイ28：16―20）

キリスト教会の伝統では、復活の出来事から40日後に「主の昇天」を記念する。この間、イエスは、裏切った弟子たちをゆるし、愛して、再び弟子としての使命感を抱くまで導いた。そして、この日、弟子たちに一つの願いを託して天に昇っていった。願いを受けた弟子たちは勇気をもって世界宣教に乗り出していく。

「神の国と神の義を求めよ」。ガリラヤ湖畔の丘の上で語られたメッセージとも直結する。全世界の福地化を目指す歩みによってキリスト教の歴史が築かれていく。（I）

天地

昭和の日に天地子の地元で市主催の合唱祭があった。毎年、この日に決めているのは、音楽ホールの冷暖房費がかからないから。それなのに、「寒いからクーラーをとめて」と訴えてきた女性がいたので、「コートを羽織ってください」と応えた▼ステージの設営が終わり、時間があったので本番の舞台で練習することに。20分ほどの練習の終わりころ、突然、後列の男性が倒れかかってきた。意識不明状態なので、そのまま寝かせ、手で頭を支えた。数秒後、「もう大丈夫だから」と立ち上がろうとするのを、「動かないで」と抑え、救急車を手配。「こんな時は専門家に任せた方がいい」と、経験からくるアドバイスをした▼天地子も二度体験した救急車に付き添いで乗ると、隊員に同じような質問を受ける。慣れたもので、状況を詳しく説明した。幸い、不整脈で通っているかかりつけの病院が受け入れてくれることになり、搬送▼翌日、回復した男性から電話があり、「妻に言われ、退団したい」と。男性は女性の声に引かれがちなので、合唱の先生に「男性は女性に引かれないように」とよく注意されるのだが、男たちは家でも妻に引かれているので仕方ないのか▼技術優先の時代にリベラルアーツが見直されている。文字通り「自由」になるための「学問」で、そこに必ず音楽が含まれているのは興味深い。仏教やキリスト教など宗教の基本にも音楽がある。音楽は人を自由にするツールの一つなのだろう。合唱に励み、いつかは妻から自由になりたい！

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所 ■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話 03（3353）2940
FAX 03（5363）5182
e-mail religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀 エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
（定価：本体2000円＋税）

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
四六判296頁（本体1500円＋税）
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL 03-6657-9000 Fax 03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分。こんな苦しみは、自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL：03-3811-5361 FAX：03-3815-5554